

授業名： 法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
菅原 好秀	一般	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 国家の基本法である憲法と、私人間の日常生活における紛争解決のための民法を学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①法体系全体を、判例を踏まえて説明できることを目標とする。						
【履修上の注意】 法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	ガイダンス		日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史 日常における法の重要性を、事例とともに理解する。			
2	日本国憲法①		日本国憲法の法体系の特徴・機能、個人の尊重、三大原則 個人の尊重と三大原則との関係を理解する。			
3	日本国憲法②		自由権(表現の自由、信教の自由を中心に) 自由権について、判例とともに理解する。			
4	日本国憲法③		社会権(生存権を中心に) 社会権の成り立ち、生存権をめぐる判例・学説の対立を理解する。			
5	日本国憲法④		幸福追求権・新しい人権、平等権 新しい人権について、判例とともに理解する。			
6	日本国憲法⑤		人権規定のまとめ 人権規定の判例を横断的に理解する。			
7	日本国憲法⑥		統治機構の概要、国会 憲法の法体系における統治機構の位置づけや国会の仕組みを理解する。			
8	日本国憲法⑦		内閣、裁判所、地方自治、憲法改正 内閣や裁判所の仕組みを理解する。			
9	民法①		総則(行為能力、契約の成立・有効要件、代理を中心に) 総則について、事例とともに理解する。			
10	民法②		物権(種類、対抗要件)、債権(債務不履行、瑕疵担保) 物権および債権について、事例とともに理解する。			
11	民法③		担保(人的担保、物的担保)、不法行為 保証、担保物権、不法行為について、事例とともに理解する。			
12	民法④		家族法の概観、親族法(親等、婚姻、親子、扶養) 親族法の制度概要を理解する。			
13	民法⑤		親族法(離婚、親権) 離婚後の親権について、事例を踏まえて理解する。			
14	民法⑥		相続法(法定相続、遺言、遺留分を中心に) 相続法について、事例とともに理解する。			
15	まとめ		憲法および民法のまとめ これまでの授業を振り返り、全体像を理解する。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	受講態度 筆記試験	30% 70%	0% 0%
【教科書】渡辺信英編『日本国憲法 人権と福祉』(南窓社)						
【参考書】講義において適宜指示します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 医療倫理

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	一般	橋本	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 社会環境の変化と技術の進展に伴う医療、福祉、および研究における倫理並びに倫理原則について学ぶ。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①各授業のテーマについて概要を説明し、自分の考えを述べることができる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	倫理とは		生命倫理の今日的課題について考える。 生命倫理の基本原則について説明できる。			
2	インフォームドコンセント		臨床現場における医療者と患者関係について考える。 守秘義務について説明できる。			
3	医療倫理		医療機関における臨床倫理について考える。 医療倫理の重要性について説明できる。			
4	出生前診断		着床前診断, 出生前診断について考える。 性別の選択, 人工妊娠中絶の現状について説明できる。			
5	生殖補助医療		生殖補助医療技術について考える。 生殖補助医療技術の問題点について説明できる。			
6	遺伝子・ゲノム医療		遺伝子・ゲノム医療について考える。 遺伝子・ゲノム医療の課題について説明できる。			
7	臓器移植		臓器移植について考える。 子供の臓器提供の現状について説明できる。			
8	高齢者の医療, 福祉		高齢者の医療と福祉について考える。 高齢者の医療と福祉をめぐる課題について説明できる。			
9	エンドオブライフ・ケア		緩和ケアについて考える。 安楽死・尊厳死の現状について説明できる。			
10	救急医療・災害医療		救急医療・災害医療における医療倫理について考える。 トリアージについて説明できる。			
11	ロボット・AI		医療におけるロボットとAIについて考える。 マインドリーディングとプライバシーについて説明できる。			
12	医学研究		動物・人を対象とした医学研究について考える。 科学者の行動規範, 不正行為, 利益相反について説明できる。			
13	医療情報		医療情報の保護と共有について考える。 医療情報の特性と範囲について説明できる。			
14	公衆衛生		ヘルスプロモーションの視点から感染症対策について考える。 公衆衛生について概要を説明できる。			
15	医療とジェンダー		医療とジェンダーについて考える。 ジェンダーの概念について説明できる。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】新版 医療倫理Q&A(太陽出版)						
【参考書】生命倫理と医療倫理(金芳堂)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業のテーマごとに要点をまとめる。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 社会福祉学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
阿部 正孝	一般	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 私達が過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について多面的に学びます。					【受講して得られる力】 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 知識・理解 態度・志向性 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】 ①変動する社会環境の中での社会問題を学ぶ ②高齢化・少子化における現代社会の性質を学ぶ ③人々が過ごしやすい社会の社会福祉を学ぶ						
【履修上の注意】		講義内で試験を実施することもあります。詳細については講義の際にお伝えします。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	社会福祉の理念と意義 生活と福祉		少子高齢化と人口減少社会について学びます。			
2	社会福祉の理念と人権 基本的人権とノーマライゼーション		現代の福祉理念と社会福祉を支える諸原理を学びます。			
3	社会福祉・社会保障の意義と 役割		社会保障制度の意義や機関を学びます。			
4	子ども家庭福祉1 少子化時代と 子育て		少子化時代の子育て支援を学びます。			
5	子どもの家庭福祉2 子どもの成 長と問題(児童虐待)		すこやかな成長の支援や課題を学びます。			
6	障害者福祉1 障害とは何か？		障害についての考え方をさぐります。			
7	障害者福祉2 身体障害・知的障害・精神障害		各障害の課題を学びます。			
8	高齢者福祉1 高齢者福祉と介護保険		高齢者の健康保持と介護サービスを学びます。			
9	高齢者福祉2 老人福祉施設と高齢者福祉の将来		高齢者の在宅サービスと認知症ケアを学びます。			
10	生活支援のための公的援助 我が国の社会保障制度の枠組み		公的扶助と社会保障制度を学びます。			
11	人間関係とコミュニケーション1 コミュニケーションの構築		コミュニケーションの意義・役割を学びます。			
12	人間関係とコミュニケーション2 コミュニケーションにおける人間関係の形成		援助における自己理解を学びます。			
13	社会福祉援助活動の概要		社会福祉の援助活動の概要を学びます。 ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの活用。			
14	地域福祉の社会的支援制度 地域医療・教育・就労		多様な社会的支援制度を学びます。			
15	まとめ		振り返り			
期末 試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】特に指定しません						
【参考書】特に指定しません						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】受講後は様々な社会問題や、地域社会の課題について述べられるようになることを期待します。						
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 統計学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業・理学療法学科	【学年】	1
野田 工	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ。データの分布に関する知識について整理し、推測と、仮説検定法について学習する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する。 ②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける。 ③母平均の推定・検定について理解する。						
【履修上の注意】電卓(ルート計算機能付き)を持参することが望ましい						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	統計学の概説		オリエンテーション, データの種類 医療における統計の必要性, 統計で用いられるデータの概要が理解できる			
2	データの表わし方		度数分布とヒストグラム データの種類の概要が理解できるとともに, データをグラフや表で表わすことができる			
3	データの分布の代表値 1		平均, 中央値, 最頻値 データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる			
4	データの分布の代表値 2		分散, 標準偏差 データの分布の特徴(広がり)を表わす代表値について理解できる			
5	データ間の関係		散布図, 相関係数, 最小二乗法, 回帰直線 2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる			
6	確率変数と確率分布		確率の復習, 確率変数, 確率分布 確率変数と確率分布について理解できる			
7	離散型確率分布		一様分布, 二項分布, ポアソン分布 離散型確率分布である一様分布, 二項分布, ポアソン分布について理解できる			
8	連続型確率分布		正規分布, 標準正規分布 連続型確率分布である正規分布, 標準正規分布について理解できる			
9	データの推測 1		母集団と標本 母集団と標本の違いについて理解できる			
10	データの推測 2		平均値の標本分布とそのバラツキの推定値 t分布, 平均値の標本分布を学習する			
11	区間推定		点推定と区間推定 点推定と区間推定の違いについて理解できる			
12	母平均の区間推定		標準正規分布とt分布を用いた母平均の区間推定 母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる			
13	仮説検定		仮説検定の手順, 仮説検定におけるエラー, 仮説検定の実際 データが属しているグループ(母集団)に差がないかどうかを調べるための仮説検定について理解できる			
14	母平均の検定		母平均の検定 母平均の検定方法について理解する			
15	まとめ		これまでのまとめと復習 今までの講義内容を振り返ることにより, 統計学に関する知識の定着化を図る			
期末試験	前期期末試験		評価方法	実技試験 レポート	50% 30%	授業への貢献 20% 0%
【教科書】はじめての統計15講 小寺平治 講談社						
【参考書】すぐわかる確率・統計 石村園子 東京図書						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する						
【本講義に関しての質問先】			担当教員		【質問方法】教員室にて	

授業名: 物理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
梁取 春光	一般	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ 講義とまとめの演習					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①力学の基礎的な内容を理解することにより、生体での応用に結びつける力を養う						
【履修上の注意】電卓を使用しても良いが、期末試験では使用できない。各自ファイルを準備する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	物理学の概要		物理学の学習にあたって 物理史概論			
2	物理学の基礎知識Ⅰ		単位系 三角関数の計算			
3	物理学の基礎知識Ⅱ		ベクトルの取り扱い方			
4	等速運動、等加速度運動		等速直線運動での速度・時間・距離の関係 等加速度運動での速度・加速度・時間・距離の関係			
5	力の表し方、つりあい		力をベクトルの矢印で表わす 力のつりあいを作図し立式する			
6	仕事		仕事の定義と計算			
7	力学的エネルギー		重力による位置エネルギーと運動エネルギー			
8	力学的エネルギー保存		力学的エネルギー保存の計算			
9	剛体の力学		剛体を回転させる力 モーメントのつりあいの計算			
10	モーメントのつりあい		モーメントのつりあいの演習			
11	生体におけるモーメントⅠ		モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する			
12	生体におけるモーメントⅡ		モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する			
13	同演習		問題演習により力をつける			
14	放射線の基礎知識		放射線の種類と性質 放射線の人体に対する影響			
15	総合演習		まとめ			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 課題の達成度	70% 30%	0% 0%
【教科書】なし						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 化学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
廣重 淳雄	一般	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。					考え抜く力 知識・理解 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】						
①医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ばせる。						
②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる。						
【履修上の注意】 ※ 講義時は、必ずB5またはA4サイズの大学ノート(横罫-A罫:7mm×30行)を持参すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	化学		(1)物質の分類 1)混合物と純物質 2)化合物と単体 3)物質を構成する粒子 4)原子 5)原子量			
2	物質量		(1) 物質量 1)質量 2)体積 3)個数 (2) 原子の構造 (3)八偶子説			
3	原子力発電と原子爆弾		(1)原子力発電 1)放射性同位元素 2)放射線 3)原子量発電 4)放射性物質 (2)原子爆弾			
4	原子を構成する粒子		(1)原子を構成する主な粒子 (2)主な素粒子(基本物質) 1)中間子 2)中性微子			
5	化学の法則		(1)化学の主な法則 (2)化学の主な法則(練習問題)			
6	イオン		(1)イオンとイオンの生成 (2)単原子イオンと多原子イオン 1)イオンの価数 (3)最外殻電子と価電子 (4)周期律			
7	化学結合		(1)イオン結合とイオン結晶 (2)金属結合と金属結晶 (3)共有結合と共有結合の結晶			
8	酸と塩基		(1)酸と塩基 1)定義と性質 2)酸塩基の強弱 3)水の電離平衡 (2)pH (3)中和反応と塩 (4)塩の加水分解 (5)塩の液性			
9	緩衝液		(1)緩衝液 (2)緩衝液の作用			
10	溶液と調整		(1)パーセント濃度 (2)モル濃度 (3)規定濃度 (4) (A+B) (A:B)と(A→B) (5)濃硫酸の希釈法			
11	参加と還元		(1)酸化と還元 (2)酸化数 (3)酸化剤・還元剤 (4)ボルタの電池 (5)電気分解と融解塩電解			
12	金属の性質		(1)金属のイオン化傾向 (2)金属の性質 (3)錆とメッキ (4)合金			
13	水の硬度		(1)軟水と硬水 (2)硬度 (3)浸透圧 1)半透膜 2)細胞の成分 3)透析 (4)生理食塩水			
14	有機化学		(1)有機化合物 (2)高分子 1)合成高分子 (3)重合 1)付加重合 2)縮合重合 (4)高分子の構造と性質 (5)プラスチック (6)プラスチックの利点と欠点			
15	繊維		(1)天然繊維 1)動物繊維 絹・羊毛 2)植物繊維 綿・麻 (2)化学繊維 1)合成繊維 2)再生繊維 3)半合成繊維 4)無機繊維			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 レポート	90% 10%	0% 0%
【教科書】化学Ⅰ・Ⅱの新研究—理系大学受験—						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 情報リテラシー

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
添田 健仁	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 周辺機器を含むコンピュータハードウェアの取扱い、電子メール・インターネットの使用方法・マナー、ファイルやフォルダの操作、文章作成ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を講義および演習で習得する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 態度・志向性 問題解決力 統合的学習体験 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①医療、福祉分野や社会における情報の取り扱い方を理解する ②インターネットの利用マナーや危険性を理解する ③文章作成ソフトでレポート作成ができるようになる ④プレゼンテーションソフトでプレゼン資料作成およびプレゼンができるようになる						
【履修上の注意】 パソコンが持参できる場合は、可能な限り持参すること(10～15回)						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	コースオリエンテーション		科目の概要について理解する			
2	医療と情報		医療における情報の役割、取り扱い方を理解する(事例検討を含む)			
3	医療と情報		医療における情報の役割、取り扱い方を理解する(事例検討を含む)			
4	個人情報		医療における個人情報の役割、取り扱い方を理解する(事例検討を含む)			
5	情報モラル		ネット被害、SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)			
6	情報モラル		ネット被害、SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)			
7	情報モラル		ネット被害、SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)			
8	情報モラル		ネット被害、SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)			
9	研究倫理		医学系研究に関する倫理について考える			
10	インターネットによる検索		文献検索の仕方及びホームページのサーチエンジンの利用			
11	ワープロの操作		ワープロの入門			
12	表計算ソフトの操作		表計算ソフトの基本操作			
13	プレゼンテーションソフトの操作		プレゼンテーションソフトの基本操作			
14	統計ソフトの操作		Rでの基本統計			
15	まとめ		その他のソフトウェアの紹介			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 受講態度	60% 40%	0% 0%
【教科書】特になし						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 インターネットなどを用いて、次回の講義に該当する内容を予習しておくこと。キーボード操作が必須となるため、練習しておくこと。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

授業名: コミュニケーション論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤 由香里	一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 理学療法士に必要なコミュニケーションスキルや協調性について学び、意識的に日常生活に取り組めるようにします。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力 チームで働く力	
【学習目標(到達目標)】 ①ワークを通し、コミュニケーションスキル・協調性について学ぶことができる。 ②ワークを通し、自分の考えをまとめることができる。 ③ワークを通し、相手へ自分の気持ちを伝えることができる。						
【履修上の注意】		振り返りシートを無くさないようにしてください。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	科目オリエンテーション		理学療法士にとってなぜコミュニケーションが重要であるかを講義形式で行う。			
2	アイスブレイク・自分と向き合うワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 自己受容・自己肯定感・自尊感情			
3	他者を理解するワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 他者理解・バックボーン(背景)・他尊感情			
4	共感を高めるワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 共感的理解			
5	一方向・双方向のコミュニケーション体験ワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 一方向のコミュニケーション・双方向のコミュニケーション			
6	肯定的な聴き方を学ぶワーク(傾聴)		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 肯定的言動・否定的言動・傾聴			
7	ホスピタリティー・マインドを育むワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: ホスピタリティースキル・ホスピタリティーマインド			
8	自分の伝えたいことを上手に伝えるワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: アサーション・アサーティブ・DESC法			
9	自分の伝えたいことを上手に伝えるワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: アサーション・アサーティブ・DESC法			
10	合意形成の大切さに気づくワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 情報の共有・合意形成			
11	合意形成の大切さに気づくワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 情報の共有・合意形成			
12	リーダーシップを理解するワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: リーダーシップ・メンバーシップ			
13	リーダーシップを理解するワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: リーダーシップ・メンバーシップ			
14	チーム力を高めるワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 目標の共有化・プロセスの共有・助け合える人間関係			
15	チーム力を高めるワーク		ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 目標の共有化・プロセスの共有・助け合える人間関係			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験学習ワーク						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】学んだコミュニケーションスキルについて、日常生活にも意識的に活かしてください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 保健体育(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期A・月 4 前期B・木 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考える。				前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 知識・理解		
【学習目標(到達目標)】						
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高める。 ②簡易ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培う。 ③健康寿命の維持や感染症について理解を深め、自己の健康管理を図る。						
【履修上の注意】		運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	ガイダンス レクリエーション種目・球技		生涯スポーツの理解と銃内容について ストレッチ体操・縄跳び・フライングデスク・バレーボール(共に基礎練習)			
2	レクリエーション種目 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ドッチビー(簡易ゲーム) バレーボール(簡易ゲーム)			
3	レクリエーション種目 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ドッチビー(簡易ゲーム) バレーボール(到達度確認)			
4	現代社会と健康 (教室授業)		健康寿命とは何か。高齢者の脳(DVD鑑賞) 高齢者の健康問題について考える。			
5	運動遊び 球技		ストレッチ体操・縄跳び・座り鬼(敏捷性のスキルアップ) バレーボール(簡易ゲーム)			
6	長縄跳び 球技		ストレッチ体操・長縄跳び(持久力アップ) バスケットボール(基礎練習)			
7	球技		ストレッチ体操・縄跳び バスケットボール(簡易ゲーム)			
8	球技		ストレッチ体操・縄跳び バスケットボール(到達度確認)			
9	センテナリアン (教室授業)		超高齢者と呼ばれる人の秘密に迫る。 健康で幸せな人生設計を考える。			
10	ヒップホップ 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(3分の1迄覚える) バスケットボール(簡易ゲーム)			
11	ヒップホップ 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(3分の2迄覚える) 卓球・バドミントン(ラリーを続けて楽しむ)			
12	エイズとその予防 (教室授業)		エイズウイルス 症状・診断治療についての知見を得る。 感染予防と最先端の治療についての知見を得る。			
13	ヒップホップ 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(完成と踊り込み) 卓球(到達度確認)・バドミントン(簡易ゲーム)			
14	ヒップホップ 球技		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(到達度確認) 卓球(簡易ゲーム)・バドミントン(到達度確認)			
15	ニュースポーツ 球技		ストレッチ体操・縄跳び・インディアカ(ラリーを楽しむ) 球技(簡易ゲーム)			
期末 試験	縄跳び回数等受講態度・実技テスト 保健の課題レポート		評価方法	受講態度 実技試験	10% 70%	レポート 20% 0%
【教科書】必要に応じて資料を配付する。						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			実施種目の個人練習(復習)と課題レポートの作成に力を入れる。			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 保健体育(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤由香里， 十文字雄一		一般	安藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】 30(60)
				【曜日・コマ】	後期A・火 1	【授業形態・単位】 講義・演習 2
【授業の概要】				後期B・金 1	【受講して得られる力】	
体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考える。				前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 知識・理解		
【学習目標(到達目標)】						
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高める。 ②簡易ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培う。 ③高齢者・障がい者でもできるスポーツを通して、視野を広げる						
【履修上の注意】		運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	水球		水の浮力、静水圧を利用したリラクゼーションや運動療法を体験する			
水を利用したアクティビティを理解し、体験する						
2						
3	バレーボール		バレーボールを実施する			
4			チーム力の向上をめざす			
5	フライングディスク		フライングディスクを通じて、障がい者スポーツの理解をする			
6						
7	卓球・バドミントン		卓球、バドミントンを実施			
8			チーム力の向上をめざす			
9	トレーニングの実際		RM測定、マシン室(機器)でのトレーニング効果を理解する 自転車エルゴメーター、トレッドミル、トレーニングマシン			
10	フットサル		フットサルを実施する			
11			チーム力の向上をめざす			
12	ブラインドサッカー		ブラインドサッカーを通じて、障がい者スポーツを理解する			
13	バスケットボール		バスケットボールを実施する			
14			チーム力の向上をめざす			
15	まとめ		まとめ			
期末試験			評価方法	課題の達成度	100% 0%	0% 0%
【教科書】なし						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			健康管理と定期的な運動を心がけてください。			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 外国語

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
Robert Holt	英会話講師 14年勤務	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 The purpose of this course is to teach students “Beginner” level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					【受講して得られる力】 知識・理解 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in						
【履修上の注意】		Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	1A – Hello		Verb be (singular): I and you. Numbers 0–10; days of the week.			
2	1B – Where are you from?		Verb be (singular): He, she and it. Countries.			
3	Practical English: How do you spell it?		The alphabet and spelling. Spelling practice.			
4	2A – We aren’t English. We’re American.		Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.			
5	2B – What’s your phone number?		Wh– and How questions with be. Phone numbers; numbers 11–100.			
6	3A – What’s in your bag?		Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary – small things.			
7	3B – Is that a hat?		This / That / These / Those. Vocabulary – Souvenirs.			
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?		Saying and understanding prices. The use of money and numbers.			
9	4A – Family and friends.		Possessive adjectives; possessive ’s. Vocabulary – people and family.			
10	4B – Big cars or small cars?		Adjectives. Colours and common adjectives.			
11	5A – Breakfast around the world.		Present simple (+ / –): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.			
12	5B – A very long flight.		Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.			
13	Practical English: What time is it?		Telling the time. Saying how you feel.			
14	6A – She works for Armani.		Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.			
15	6B – A day in my life.		Adverbs of Frequency. A typical day.			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】English File – Beginner Student’s Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義についての質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

授業名: 解剖学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤 由香里	一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水・金 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
人体を構成する骨・関節・筋・腱・靱帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。骨モデルを使用し、立体的にイメージできるよう学習していく。					知識・理解	
【学習目標(到達目標)】						
①骨モデルを使用し、全身の骨について説明することができる。						
②骨・関節・靱帯・腱・筋の構造と機能について説明することができる。						
③神経・血管の構造と機能について説明することができる。						
【履修上の注意】		解剖学の本を必ず持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	解剖学とは		解剖学を学ぶ意義・解剖学用語について理解する。			
2	骨について		骨の名前と骨の向きについて理解する。 骨標本を用いて確認していく。			
3	骨について		骨について理解する。 骨の構造・機能・構成成分・形状分類について学習する。			
4	関節・靱帯・筋について		関節・靱帯・筋の基本構造について理解する。 関節の構造・靱帯・筋の基本構造について学習する。			
5	上肢帯と上腕の骨		鎖骨・肩甲骨・上腕骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
6	前腕と手の骨		尺骨・橈骨・手根骨・中手骨・指骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
7	脊柱		脊柱を構成する骨(頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾骨)の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
8	胸骨・肋骨		胸郭を構成する胸骨・肋骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
9	下肢帯と下肢の骨		寛骨・仙骨・大腿骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
10	下腿と足の骨		脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
11	上肢帯・上肢・手の関節		肩関節・肘関節・手関節・手の関節の構造と機能について理解する。 各関節の構造と機能についてについて学習する。			
12	下肢帯・大腿の骨		骨盤(寛骨・仙骨・尾骨)・大腿骨・膝蓋骨の構造とについて理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
13	下腿・足の骨		脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			
14	股関節・膝関節について		股関節・膝関節の構造と機能について理解する。 各関節の構造と機能について学習する。			
15	足の関節について		足関節・足の関節の構造と機能について理解する。 各関節の構造と機能について学習する。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】プロメテウス解剖学 コアアトラス 第二版/ 標準解剖学						
【参考書】図書室にも様々な解剖書がありますので適宜参考にしてください。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】骨モデルを積極的に使用し、復習してください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 解剖学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
十文字 雄一	一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水・金 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
人体を構成する骨・関節・筋・腱・靱帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。骨モデルを使用し、立体的にイメージできるよう学習していく。					知識・理解	
【学習目標(到達目標)】						
①骨モデルを使用し、全身の骨について説明することができる。						
②骨・関節・靱帯・腱・筋の構造と機能について説明することができる。						
③神経・血管の構造と機能について説明することができる。						
【履修上の注意】		解剖学の本を必ず持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	上肢帯の筋		上肢帯に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し説明できるよう学習する。			
2	上腕の筋		上腕に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
3	前腕の筋		前腕に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
4	手の筋		手内在筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
5	下肢帯の筋		下肢帯に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
6	大腿の筋		大腿に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
7	下腿の筋		下腿に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
8	足の筋		足の内在筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
9	脊柱と胸郭の構造と機能について		脊柱と胸郭を構成する骨の構造と機能について理解する。 脊柱と胸郭の連結(関節・靱帯)について学習する。			
10	体幹・胸郭の筋		体幹に付着する筋・呼吸運動における胸郭の動きと筋の働きについて理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			
11	頭蓋骨		頭蓋骨(脳頭蓋・顔面頭蓋)の構造と機能について理解する。 脳神経・血管の交通する頭蓋の孔および管について学習する。			
12	頭部の筋		頭部に付着する筋について理解する。 表情筋・咀嚼筋について起始・停止・作用・神経について学習する。			
13	上肢帯・上肢の神経		上肢帯・上肢を支配する神経について理解する。 上肢帯・上肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。			
14	下肢帯・下肢の神経		下肢帯・下肢を支配する神経が理解する。 下肢帯・下肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。			
15	全身の血管の走行		全身の血管の分布と走行について理解する。 全身の静脈・動脈の血管の分布と走行について学習する。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】プロメテウス解剖学 コアアトラス 第二版/ 標準解剖学						
【参考書】図書室にも様々な解剖書がありますので適宜参考にしてください。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】骨モデルを積極的に使用し、復習してください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】教員室にて	

授業名： 解剖学Ⅱ (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
川崎 萌絵	一般	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内臓系(消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系)および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解	
【学習目標(到達目標)】 ①消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系に属する器官の構造と機能を学習する。						
【履修上の注意】		後期末に筆記試験を行い、一定の基準に達した場合合格とする。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	消化器系(1)		消化器の働き、種類と構造 口唇			
2	消化器系(2)		口腔、口腔腺、歯			
3	消化器系(3)		舌、咽頭、食道、胃			
4	泌尿器系(1)		泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き			
5	泌尿器系(2)		尿管、膀胱、尿道			
6	内分泌系(1)		内分泌系の働き 下垂体			
7	内分泌系(2)		上体甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、 精巣、卵巣、胸腺			
8	生殖器系(2)		生殖器の構造			
9	呼吸器系(1)		呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭			
10	呼吸器系(2)		喉頭、気管と気管支			
11	呼吸器系(3)		肺、胸膜、縦隔			
12	循環器系(1)		喉頭、気管と気管支			
13	循環器系(2)		肺、胸膜、縦隔			
14	循環器系(3)		肺、胸膜、縦隔			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】標準解剖学						
【参考書】指定なし(イメカラ:イメージするからだのしくみ メディックメディア 推奨)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			イメージを持って理解できるよう、イラストが描けるようになるまで復習してください。			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 解剖学Ⅱ (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一	一般	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 ヒトの働きを知るために、人体の構造と機能を総合的・体系的に理解させる目的で人体の構造を論述する。殊に神経系と運動器との関係を重点的に学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①専門教育を学習するための基礎となる必要な基本的正常構造(特に中枢・末梢神経)を理解する						
【履修上の注意】		後期末に筆記試験を行い、一定の基準に達した場合合格とする。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	神経解剖学とは		神経系の構造概要 神経細胞			
2	中枢神経系(1)		脊髄の構造 延髄の構造			
3	中枢神経系(2)		橋の構造 小脳の構造			
4	中枢神経系(3)		中脳の構造			
5	中枢神経系(4)		間脳の構造 大脳基底核の構造			
6	中枢神経系(5)		大脳皮質の構造			
7	中枢神経系(6)		運動系の伝導路 感覚系の伝導路			
8	中枢神経系(7)		脳室系と髄膜 脳脊髄液の循環			
9	中枢神経系(8)		ウィリスの動脈輪 大脳皮質の血管分布			
10	末梢神経系(1)		脊髄神経と脳神経 脊髄神経(31対)の走行とその名称			
11	末梢神経系(2)		脳神経(12対)の走行とその名称			
12	末梢神経系(3)		頸・腕神経叢とそれらの走行 腰・仙骨神経叢とそれらの走行			
13	末梢神経系(4)		上肢・下肢末梢神経の走行 骨格筋への分布			
14	自律神経系(1)		自律神経の働き 視床下部・下垂体			
15	自律神経系(2)		交感神経・副交感神経			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】標準解剖学						
【参考書】病気が見えるvol.7脳・神経 メディックメディア						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			イメージを持って理解できるよう、イラストが描けるようになるまで復習してください。			
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 生理学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
川崎 萌絵	一般	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・金 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
人体を理解するための、より基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説します。その後、それを踏まえた上で 人間の身体の様々なはたらきを見ていきます。					知識・理解 チームで働く力 論理的思考力 考え抜く力 前に踏み出す力	
【学習目標(到達目標)】						
①細胞の基礎について説明することができる。						
②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。						
③生理学に興味をもつ						
【履修上の注意】		シラバスにて次回授業内容を確認し、予習・復習を慣行すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	生理学とは		生理学の概要につて 生物機能の緻密で複雑な仕組みについて理解する			
2	細胞の構造と機能		細胞について理解する 教科書p1－13			
3	グループワーク		細胞の構造と機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして理解を深める。			
4	細胞の興奮と伝導1		刺激と興奮と膜電位について理解する 教科書p14－22			
5	細胞の興奮と伝導2		興奮発生の機序と興奮伝導について理解する 教科書p14－22			
6	グループワーク		細胞の興奮と伝導について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして理解を深める。			
7	神経と筋1		骨格筋の構成を学習し、筋収縮のメカニズムを学習する。 教科書p23－42			
8	神経と筋2		筋収縮力学と筋のエネルギー発生について理解する 教科書p23－42			
9	神経と筋3		様々な筋の収縮様式について理解する 教科書p23－42			
10	グループワーク		神経と筋について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして理解を深める。			
11	神経機能1		末梢神経・中枢神経の役割について学習する。 教科書p43－89			
12	神経機能2		自律神経系の構成と作用について学習する。 教科書p43－89			
13	神経機能3		感覚器と求心性神経の役割について学習する 教科書p43－89			
14	グループワーク		神経機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして理解を深める。			
15	まとめ・復習		講義内容について理解を深める			
期末試験	前期期末試験		評価方法	受講態度 筆記試験	10% 50%	課題の達成度 40% 0%
【教科書】Qシリーズ新生理学【電子版付】						
【参考書】病気がみえるvol.7脳・神経 改訂第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書を一読し、赤字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 生理学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
川崎 萌絵	一般	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・火 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
人体を理解するための、より基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説します。その後、それを踏まえた上で 人間の身体の様々なはたらきを見ていきます。					知識・理解 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】						
①細胞の基礎について説明することができる。						
②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。						
③生理学に興味をもつ						
【履修上の注意】		シラバスにて次回授業内容を確認し、予習・復習を慣行すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	呼吸(肺)の生理1		呼吸とはなにかを学習する			
2	呼吸(肺)の生理2		ガスの拡散、ヘモグロビンの役割について説明できる			
3	呼吸(肺)の生理3		呼吸の周期性と肺換気量調節の仕組みについて説明できる			
4	循環(心臓・血液)の生理1		心臓・血管・リンパ管系の機能について理解する			
5	循環(心臓・血液)の生理2		血液の機能、免疫系のシステムについて理解する			
6	循環(心臓・血液)の生理3		全身の循環調節機構について理解する			
7	消化・吸収の生理1		消化器系の構造と機能について理解する			
8	消化・吸収の生理2		食物を摂取し消化・吸収・排泄するしくみを理解する			
9	栄養・代謝の生理1		栄養素の代謝過程、エネルギー産生のしくみを理解する			
10	栄養・代謝の生理2		三大栄養素の中間代謝とエネルギー代謝について説明できる			
11	泌尿(腎臓)の生理1		腎臓の構造と機能について理解する			
12	泌尿(腎臓)の生理2		尿の生成と排泄について理解する			
13	内分泌(ホルモン)の生理1		ホルモンの一般的性質について理解する			
14	内分泌(ホルモン)の生理2		内分泌の概念と作用機構について概要を理解する			
15	内分泌(ホルモン)の生理3		内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用機構について理解する			
期末試験	後期期末試験		評価方法	受講態度 筆記試験	20% 80%	0% 0%
【教科書】Qシリーズ新生理学【電子版付】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			教科書を一読し、赤字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 生理学実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
PT学科教員 (安藤・荒木・川崎・安中)	一般	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3・4	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
様々な医療機器を用いて、実験的に心臓、筋肉、呼吸、循環など生理学を学びます。自分自身あるいは同級生を対象として、実習を展開します。					知識・理解 情報活用能力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①肺活量を測定し考察できる ②心電図・筋電図を解析し考察できる ③血圧や脈拍を測定し考察できる						
【履修上の注意】 実習の際は実習着・実習靴を着用してください						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	循環(心拍・血圧)解析 (安中)		安静状態での血圧・心拍数を測定し、体位変換による変化を観察・測定する。神経性調節の仕組みを理解する。触診法および聴診法での血圧測定、橈骨動脈触知による脈拍測定の方法を学習する			
2			キーワード:触診法、聴診法、コロトコフ音			
3						
4	呼吸① (川崎)		安静時の呼吸回数と、体位変換が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸機能の神経性調節の仕組みを理解する。			
キーワード:呼吸数、安静時・体位変換						
5						
6	呼吸② (川崎)		スパイロメーターを用いて呼吸機能の測定を行い、測定項目の意味を理解する			
キーワード:呼吸機能、肺活量、スパイログラム、努力呼吸曲線、フローボリューム曲線						
7						
8	心電図解析 (安藤)		標準12誘導心電図を記録し、心臓の電氣的興奮の発生を理解する 12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する			
9			キーワード:P波、QRS波、T波、アイントーベンの三角形・移行帯			
10						
11						
12	表面筋電・神経伝導速度解析 (荒木)		誘発筋電図(M波)の記録から運動神経の伝道速度を求め、動きを理解する。正中神経刺激による誘発筋電図(M波)から運動神経伝道速度を測定する			
13			キーワード:運動神経伝導速度、MUP、振幅、持続時間、位相			
14						
15						
期末試験			評価方法	レポート	100% 0%	0% 0%
【教科書】Qシリーズ新生理学【電子版付】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			各担当教員から指示があった予習課題・復習課題を実施すること			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 運動学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
荒木 芳一	一般	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・木 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 運動学の概要および上肢の関節運動について解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する					【受講して得られる力】 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①運動学とは何かを説明できるようになる ②上肢の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる						
【履修上の注意】		解剖・生理学の知識も必要になるため必要に応じて教科書なども準備して下さい				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	運動学とは、運動の面と軸		運動学とは何か説明できるようになる 身体運動の面と軸について説明できるようになる			
2	生体の構造① (関節の構造、機能、分類)		関節の構造、機能、分類について説明できる 腱および靱帯の構造と機能について説明できる			
3	生体の構造② (骨格筋の構造)		骨格筋の構造、筋の収縮様態について説明できる			
4	上肢帯と上肢の運動① 上肢帯に作用する筋		上肢の骨格・血管・神経について説明できる 肩甲帯と肩関節の動きについて運動学的用語を用いて説明できる			
5	上肢帯と上肢の運動② 肩関節に作用する筋		上肢帯に付着する筋の起始・停止・神経支配・作用について説明できる 肩関節の運動の特徴と運動方向の名称を説明できる			
6	肘関節と前腕の運動① 関節と靱帯		肘関節を構成する骨と靱帯について説明できる 関節の特徴と運動方向の名称を説明できる(肘角・運搬角)			
7	肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋		肘関節に作用する筋の起始・停止・神経・神経支配・作用について説明できる			
8	手関節と手の運動① 手関節・手指の解剖		手関節および手指を構成している骨の名称を説明できる 解剖学的特徴を説明できる(手根管、骨の配列、神経など)			
9	手関節と手の運動② 手関節と手指の関節		手関節および手指の運動名称について説明できる 解剖学的特徴を説明できる(手根管、骨の配列、神経など)			
10	手関節と手の運動③ 手関節の筋		手関節に関わる筋について説明できる 各関節名称を説明できる			
11	上肢の運動		まとめ			
12	顔面および頭部の運動		顔面および頭部の解剖学的特徴を説明できる 顔面および頭部の筋について説明できる			
13	体力と運動処方①		体力とは何か説明できるようにする			
14	体力と運動処方②		運動に必要なエネルギーについて説明することができる			
15	生体力学の基礎 (ベクトル・三角関数)		運動学的分析におけるデータの基本について説明できる 力学的エネルギー、てこの種類について説明できる			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 80% 小テスト 10%	受講態度	10% 0%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 山崎 敦(著)						
【参考書】身体運動学 市橋則明(著) メディカルビュー						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の復習をしてください						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名: 運動学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
荒木 芳一	一般	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる					【受講して得られる力】 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる ②正常歩行と異常歩行を理解し、説明できるようになる						
【履修上の注意】		解剖・生理学の知識も必要になるため必要に応じて教科書なども準備して下さい				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	下肢帯と下肢の運動		下肢の関節, 靱帯, 神経, 血管について説明できる			
2	股関節の運動①		股関節の解剖と動きについて説明できる			
3	股関節の運動②		股関節に関与する筋について説明できる			
4	膝関節の運動①		膝関節の解剖と動きについて説明できる			
5	膝関節の運動②		膝関節に関与する筋について説明できる			
6	足関節(足部)の運動①		足関節の解剖と動きについて説明できる			
7	足関節(足部)の運動②		足関節に関与する筋について説明できる 足部に関与する筋、足のアーチについて説明できる			
8	頸部～体幹の運動① 頸部の解剖		頸部の関節と運動について説明できる			
9	頸部～体幹の運動② 頸部の運動		頭部, 頸部, 体幹の筋について説明できる			
10	胸郭① 胸郭の解剖・働きについて		胸椎と胸郭の解剖的特長と関節について説明できる 胸郭の筋について説明できる			
11	胸郭② 呼吸運動と筋について		呼吸の種類と筋活動について説明できる			
12	姿勢①		重心(人体の重心測定、重心線)について説明できる 立位姿勢の安定性について説明できる			
13	姿勢②		立位姿勢の安定性について説明できる 姿勢の記載と類型について説明できる			
14	歩行と走行①		正常歩行について説明する事ができる			
15	歩行と走行②		正常歩行と異常歩行の違いを述べる事ができる			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10% 0%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 山崎 敦(著)						
【参考書】身体運動学 市橋則明(著) メディカルビュー						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の復習をしてください						
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 人体の構造と機能

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
川崎 萌絵	一般	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
人体がどのように成り立っているのかを学びます。人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)とはたらき(機能)について学習し、解剖学・生理学・運動学の理解につながるイメージをもてるよう取り組みます。					知識・理解 創造的思考力 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】						
①人体で代表的な器官の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する						
【履修上の注意】はさみ・のり・カッター・定規・筆記用具の準備をし講義に臨んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	人体の構造と機能の概要		人体の構造と機能について概要を理解する。 当日、資料を配布し説明します。			
2	脳の構造と機能1		脳の構造と各器官のはたらきについて理解する 教科書p63－67、p129－131			
3	脳の構造と機能2		脳モデル作成を通して構造理解を深める 教科書p63－67、p129－131			
4	脳の構造と機能3		脳モデル作成を通して構造理解を深め・そのはたらきについて理解する 教科書p63－67、p129－131			
5	神経伝導路の構造と機能1		神経伝導路の構造とはたらきについて理解する 教科書p81－82、p160－167			
6	神経伝導路の構造と機能2		神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書p81－82、p160－167			
7	神経伝導路の構造と機能3		神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書p81－82、p160－167			
8	神経伝導路の構造と機能4		神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書p81－82、p160－167			
9	呼吸器の構造と機能1		呼吸器の構造と換気のしくみについて理解する 教科書p89－91、p153－159			
10	呼吸器の構造と機能2		呼吸器モデル作成を通して構造・しくみの理解を深める 教科書p89－91、p153－159			
11	呼吸器の構造と機能3		呼吸器モデル作成を通して構造・しくみの理解を深める 教科書p89－91、p153－159			
12	筋肉の構造と機能1		筋の構造とはたらきについて理解する 教科書p81－82、p160－167			
13	筋肉の構造と機能2		筋の運動モデル作成を通して構造・しくみを理解する 教科書p81－82、p160－167			
14	筋肉の構造と機能3		筋の運動モデル作成を通して構造・しくみを理解する 教科書p81－82、p160－167			
15	まとめ・復習		まとめ・復習			
期末試験			評価方法	課題の達成度	80%	0%
				受講態度	20%	0%
【教科書】理学療法士・作業療法士ブルー・ノート 基礎編2nd edition						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】			課題達成に必要な知識の自己学習、成果物を利用した復習			
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 公衆衛生学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一	一般	安中	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 健康の維持・増進、疾病の予防に関して理解し臨床の現場での心構えや、医療者としての資質を養う。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①健康の維持・増進について理解を深める ②保険統計からわが国の健康の現状を捉える						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	公衆衛生学とは		公衆衛生の概念・歴史			
2	健康(保健統計と公衆衛生)		社会環境の変動、人口統計について学ぶ			
3	医の倫理と患者人権		臨床における患者の自己決定権などについて学ぶ。医師法など			
4	診療情報と各種証明書		診療情報についてや、交付書類に学ぶ			
5	終末期医療としの概念		人間らしく死を求める自己決定権の尊重について学ぶ			
6	医療法と医療体制		日本の医療について学ぶ			
7	災害医療		災害時の医療について学ぶ			
8	高齢者保健		介護保険法などについて学ぶ			
9	感染症対策①		感染症の成り立ち、感染症法について学ぶ			
10	感染症対策②		予防接種や院内感染対策について学ぶ			
11	医療法と医療体制①		医療法について学ぶ			
12	医療法と医療体制②		チーム医療について学ぶ			
13	成人保険と健康増進		健康増進法、健康日本21について学ぶ			
14	産業理学療法		産業理学療法について学ぶ			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 レポート	60% 30%	受講態度 10% 0%
【教科書】公衆衛生が見える メデカルビュー						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】海外の医療にも目を向けていく						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名: リハビリテーション医学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
リハビリテーション医療の中で扱われる疾患と障害を学ぶ。病気の障害の基礎的なことを学ぶ。病気を治すためのチーム医療について学び自分の役割について理解する。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】						
①リハビリテーションに必要な医学的基礎知識を学ぶ ②リハビリテーション医療の流れを理解できる ③リハビリテーションの中でチームアプローチの必要性を理解する						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	リハビリテーション医学とは		コースオリエンテーション 講義の概要を理解する			
2	障害別リハビリテーション①		関節拘縮と筋力低下とは何か、評価・治療について理解する 関節拘縮と筋力低下について、評価・治療について説明することができる			
3	障害別リハビリテーション②		運動麻痺とは何か、評価・治療について理解する 動麻痺について、評価・治療について説明することができる			
4	障害別リハビリテーション③		運動学習の理論について理解する 運動学習とは何か説明することができる			
5	障害別リハビリテーション④		高次脳機能障害について、種類・評価・治療について理解する 高次脳機能障害とは何か説明することができる			
6	障害別リハビリテーション⑤		摂食・嚥下障害とは何か、評価・治療について理解する 摂食・嚥下障害とは何か説明することができる			
7	障害別リハビリテーション⑥		排泄障害とは何かの理解と、治療と合併症について理解する 排泄障害について説明できる			
8	障害別リハビリテーション⑦		痙縮とは何か、評価・治療について理解する 痙縮のコントロールについて説明することができる			
9	障害別リハビリテーション⑧		高齢化と介護予防について理解する 老化とは何か説明することができる			
10	疾患別リハビリテーション①		脳卒中について疾患の特徴とリハビリテーションの目的を理解する 脳卒中の特徴・リハビリテーションの目的について説明できる			
11	疾患別リハビリテーション②		パーキンソン症候群について疾患の特徴とリハビリテーションの目的を理解する パーキンソン病の特徴・リハビリテーションの目的について説明できる			
12	疾患別リハビリテーション③		神経・筋疾患についての特徴とリハビリテーションの目的を理解する 神経・筋疾患について、疾患の特徴とリハビリテーションの目的を説明できる			
13	疾患別リハビリテーション④		運動器疾患についての特徴とリハビリテーションの目的を理解する 運動器疾患について、疾患の特徴とリハビリテーションの目的を説明できる			
14	疾患別リハビリテーション⑤		生活習慣病について疾患の特徴とリハビリテーションの目的を理解する 生活習慣病について疾患の特徴とリハビリテーションの目的を理解する			
15	理学療法士に身近な疾患		理学療法士に関係した疾患のまとめ 理学療法士に関係した疾患について説明が出来る			
期末試験	後期期末試験		評価方法	実技試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎リハビリテーション医学						
【参考書】特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖・生理学知識が必要になります						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 医療専門職として相応しい礼儀や接遇態度を身につけることの重要性を認識する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①社会人を自覚したうえで医療従事者に相応しい礼儀や接遇態度を考慮し、責任ある言動がとれるようにする。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	現代医療の現場		人々の社会生活と医療の接点を考える。 症例を通して現代医療の現場について学ぶ。			
2	医療専門職		医療専門職に求められる能力について知る。 全ての医療専門職に求められるものとは何かを学ぶ。			
3	PT・OT		理学療法士の役割について理解する。 理学療法士がどのように養成されるのかを学ぶ。			
4	健康と疾病		心身の健康と疾病について考える。 人の一生から見た健康と疾病について学ぶ。			
5	医療専門職の役割		医療専門職と患者との関わりについて理解する。 医療専門職がどのように患者に関わるのかを学ぶ。			
6	医学の体系		医学体系について知る。 医学がどのように体系づけられているのかを学ぶ。			
7	研究		研究の目的を知る。 研究が何のためにあるのかを学ぶ。			
8	医療面接		医療専門職に必要なコミュニケーション・スキルを理解する。 理学療法士に求められるコミュニケーション技術を学ぶ。			
9	医療専門職の姿勢・態度		臨床において求められる姿勢・態度を理解する。 患者に対峙した際の立ち居振る舞いについて学ぶ。			
10	臨床思考・治療		一連の理学療法の流れを知る。 評価から治療計画立案までの臨床推論の概要を学ぶ。			
11	生活支援技術		患者の日常生活活動と基本的動作について知る。 日常生活活動と基本的動作における評価の概要について学ぶ。			
12	医療倫理		倫理的医療を実践するために必要な能力を知る。 症例を通して臨床前に身につけるべき医療倫理の概要を学ぶ。			
13	医療安全		チーム医療と医療安全について知る。 医療事故の要因とその予防策およびチーム医療について学ぶ。			
14	医療システム		わが国の医療システムを知る。 医療システム, 医療経済および医療関連法律の概要を学ぶ。			
15	生涯学習		生涯学習の必要性を知る。 医療者が備えるべき生涯学習能力について学ぶ。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】特に指定しない。						
【参考書】医療入門(医学書院)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業のテーマごとに要点をまとめる。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 基礎理学療法学(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・月 1	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
理学療法士としての資質を醸成する為に、理学療法の基盤となる領域を幅広く学び、効果的な理学療法を行ううえでの背景や根拠を学ぶ。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】						
①理学療法士の仕事について説明できる。 ②理学療法の対象について説明できる。 ③理学療法の方法について説明できる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	理学療法士とは		理学療法士の仕事, 現状, 養成校カリキュラムの概要を学ぶ。			
2	到達目標		養成校卒業時の到達目標に基づく成績評価について理解する。			
3	理学療法の対象①		脳血管障害(脳卒中)による片麻痺について概要学ぶ。			
4	理学療法の対象②		パーキンソン病, 神経・筋疾患について概要を学ぶ。			
5	理学療法の対象③		小児疾患(脳性麻痺)について概要を学ぶ。			
6	理学療法の対象④		変形性関節症などの整形疾患の概要について学ぶ。			
7	理学療法の対象⑤		脊髄損傷について概要を学ぶ。			
8	理学療法の対象⑥		呼吸・循環器疾患について概要を学ぶ。			
9	理学療法の対象⑦		糖尿病, 老年症候群について概要を学ぶ。			
10	理学療法の方法①		筋力の評価と治療の基礎を学ぶ。 徒手筋力検査を体験する。			
11	理学療法の方法②		関節可動域の評価と治療の基礎を学ぶ。 関節可動域測定を体験する。			
12	理学療法の方法③		形態測定の基礎を学ぶ。 形態測定を体験する。			
13	理学療法の方法④		反射検査の基礎を学ぶ。 深部腱反射と姿勢反射について体験する。			
14	理学療法の方法⑤		バランスの評価と治療の基礎を学ぶ。 バランス検査を体験する。			
15	理学療法の方法⑥		疼痛の評価と治療の基礎を学ぶ。 疼痛の評価を体験する。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】 特に指定しない						
【参考書】 PTスタートガイド 基礎理学療法概論(メヂカルビュー社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマに配布される資料を見返すこと。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 基礎理学療法学(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 理学療法士としての資質を醸成する為に、理学療法の基盤となる領域を幅広く学び、効果的な理学療法を行ううえでの背景や根拠を学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法士の仕事について説明できる。 ②理学療法の対象について説明できる。 ③理学療法の方法について説明できる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	理学療法の方法⑦		感覚障害の評価と治療の基礎を学ぶ。 表在感覚・深部感覚検査を体験する。			
2	理学療法の方法⑧		運動麻痺の評価と治療の基礎を学ぶ。 片麻痺の運動機能検査を体験する。			
3	理学療法の方法⑨		運動失調の評価と治療の基礎を学ぶ。 運動失調検査を体験する。			
4	理学療法の方法⑩		歩行能力の評価の基礎を学ぶ。			
5	義肢装具		義肢装具とは何か、また、その使用目的について学ぶ。			
6	ADL練習		ADLとは何か、またADLを見るために何が必要かを学ぶ。			
7	地域包括ケアと理学療法		地域包括ケアとは何か、また高齢社会の現状を学ぶ。			
8	疾病と障害の分類		理学療法士による“障害のみかた”について学ぶ。			
9	臨床実習		養成校で行われている臨床実習について学ぶ。			
10	物理療法と理学療法		理学療法に併用される物理療法について学ぶ。			
11	診療報酬制度		保険下で働く理学療法士の対価について学ぶ。			
12	理学療法の歴史		理学療法の歴史と世界の理学療法について学ぶ。			
13	理学療法士にかかわる他職種		理学療法にかかわる他(多)職種について学ぶ。			
14	施設体験		現場の知識・技術を通して働くことの意義を理解する。			
15	施設体験					
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 受講態度	70% 10%	レポート 0%
【教科書】 特に指定しない						
【参考書】 PTスタートガイド 基礎理学療法概論 (メヂカルビュー社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマに配布される資料を見返すこと。						
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 理学療法士になるために、必要な文章能力・理論的思考を理解し、修得する科目です。					【受講して得られる力】 チームで働く力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①文章読解・文章作成能力について学び、文章検定3級を取得する。 ②自分の意見を論理的に説明することができる。 ③理学療法士に必要な根拠ある理学療法とは何かを説明することができる。						
【履修上の注意】		特にありません。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	文章検 ～語彙・文法～		教科書の「第1章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。			
2	文章検 ～資料分析～		教科書の「第2章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。			
3	文章検 ～文章読解～		教科書の「第3章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。			
4	文章検 ～手紙文～		教科書の「第4章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。			
5	文章検 ～意見文～		教科書の「第5章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。			
6	文献抄読		興味のある分野の文献を検索し、文献を1つ選ぶ。 グループワークを通し理解を深める。			
7	文献抄読		文献を読み、その内容について他者へ伝える。 グループワークを通し理解を深める。			
8	症例検討		グループに分かれ、興味のある症例について調べ、治療プログラムを考え、発表する。			
9						
10						
11						
12						
13						
14	発表		グループ発表			
15	発表		グループ発表			
期末試験	後期期末試験		評価方法	発表会の結果	50%	0%
				筆記試験	50%	0%
【教科書】基礎から学べる文章カステップ文章検3級対応						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一		病院 8年勤務	安中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】 30(60)
				【曜日・コマ】	前期・月 2	【授業形態・単位】 演習 2
【授業の概要】 運動療法は、理学療法士の仕事の中核をなすものです。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を習得することを目指します。また学生同士で実施する中で、人の身体を動かすときの方法や指示の方法も習得していきます。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【学習目標(到達目標)】 ①運動療法の概要について理解し説明できる ②各運動療法の目的を理解し、説明できる ③各運動療法を経験し、実施できる						
【履修上の注意】		動きやすい服装で参加してください。スカート不可、ジーパン不可。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	関節可動域低下に対する 運動療法 ストレッチング (上肢・下肢・体幹)		ストレッチングの目的を理解し説明できる。 ストレッチングの効果を理解し説明できる。 上肢・下肢・体幹の各筋肉・関節包のストレッチングを習得する。			
2						
3			キーワード:スタティック(静的)ストレッチング、パリスティックストレッチング			
4						
5						
6						
7	関節可動域低下に対する 運動療法 関節可動域練習 (上肢・下肢)		エンドフィールを感じる。自動・他動運動の違いを感じる。実技演習。 相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。 基本的な関節に対して関節可動域運動を実施する。 キーワード:エンドフィール、関節の運動			
8						
9						
10						
11	協調運動障害に対する 運動療法 バランストレーニング		バランストレーニングを実施します。 実技演習を行います。 キーワード:システム理論、運動戦略、運動失調、フランケル体操			
12						
13						
14						
15	まとめ		まとめ			
期末試験	前期期末試験		評価方法	受講態度 レポート	20% 30%	筆記試験 50% 0%
【教科書】理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学						
【参考書】病気が見えるvol.11運動器・整形外科						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】機能障害について、運動療法の目的・方法・効果について整理し復習してください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一		病院 8年勤務	安中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】 30(60)
				【曜日・コマ】	後期・月 3	【授業形態・単位】 演習 2
【授業の概要】 運動療法は、理学療法士の仕事の中核をなすものです。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を習得することを目標とします。また学生同士で実施する中で、人の身体を動かすときの方法や指示の方法も習得していきます。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【学習目標(到達目標)】 ①運動療法の概要について理解し説明できる ②各運動療法の目的を理解し、説明できる ③各運動療法を経験し、実施できる						
【履修上の注意】		動きやすい服装で参加してください。スカート不可、ジーパン不可。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	筋力低下に対する運動療法 筋力トレーニング (上肢・下肢・体幹)		上肢・下肢・体幹の筋力トレーニングを習得する。 実技演習を行います。			
2			キーワード: 棘上筋・棘下筋・肩甲下筋 脊柱起立筋・腹直筋・多裂筋・腹横筋			
3			腸腰筋・大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋・ハムストリングス			
4						
5						
6						
7						
8						
9	持久力低下に対する運動療法 (全身持久力トレーニング)		持久力とは何か理解し、トレーニングの効果を説明できる。 実技演習を行い、実施方法の確認とリスク管理を行います。			
10			キーワード: 直説法、間接法、トレッドミル			
11						
12						
13	歩行障害に対する運動療法 (歩行練習)		歩行を誘導する際の方法を理解し実施します。			
14			キーワード: 歩行周期、歩行中の重心軌道、免荷歩行			
15	まとめ					
期末試験	後期期末試験		評価方法	受講態度 レポート	20% 30%	筆記試験 50% 0%
【教科書】理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】機能障害について、運動療法の目的・方法・効果について整理し復習してください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		